

## 役員会 議事録

記録 小峰

- 1, 日 時：2017年6月11日（日）10時30分～12時15分
- 2, 場 所：セルテ11階 よこはま市民共同オフィス
- 3, 出席者：寺嶋、小峰、山岸、桑井、齋木、大庭、加藤、石井（敬称略、以下同じ）
- 4, 議 題：新年度の会の運営について
- 5, 決定事項

### 業務の役割分担

電話、メールの対応……………齋木（電話については転送するシステムに変えて）

家賃他、諸支払いの処理……………丸山

発明教室（第一部）の司会……………大庭

共同オフィスの会合の出席……………小峰、山岸、石井

顧問の弁理士の対応……………山岸

イベントの参加に伴う事務……………山岸

発明研究会の立案、交渉……………桑井、加藤

### 6, 会議の概要

最初出席者全員が自己紹介を行った。続いて、昨年実施したアンケート（「横浜発明振興会の更なる発展の為の意識調査」）の結果の概要について大庭理事より説明があった。

次に、大庭理事が「組織の存続と拡大」という課題をどういう形で実現していけばよいか、「原点回帰」と「新しい事業」という言葉を挙げて問題提起され、改革案として、5項目に亘って意見を述べられた。以下は出席者の主な発言。

「教室会場の固定化ができればよい。アイデアブックの作成は思い切って廃止してはどうか。会報は郵送せずに発明教室の会場で配ってはどうか。会員がどんな強みを持っているのか、過去にどんな発表作品があったかなどデータベース化されるとよい。教室でもっと自由闊達に発言できる雰囲気があるとよい」（大庭）

「メールで受け取れない人以外は、会報はメールで送ったらどうか」（石井）

「時代的に紙の時代ではない」（加藤）

「会の現状は高齢者の承認欲求を満たすための福祉のエリアになっており、若い人が来てもギャップがありすぎる。福祉部門の活動と本来の発明推進の活動とを分けて二本立てにしないとうまく行かない」（齋木）

「会の運営が古くなってきている。それを新しくするというのが我々の命題。老人ホームから2時間かけて通ってくださる会員もいて有り難いが、高齢者を満足させる取り組みだけでは若い人達が入って来なくなる」（桑井）

会議の終盤に、齋木理事より事務局が行っている業務について役割分担を決めてはどうかと提案があり、ホワイトボードに書き出して、上記5に記載の通り担当を決めた。

「ハマ発明ニュースの作成、発送」、「発明教室の会場予約」、「アイデアブックの作成」、「会員への連絡」の事項については保留となった。会員への連絡について、齋木理事より「らくらく連絡網」が活用されていない現状の指摘があった。

以上